

第2期中期目標—第2期中期計画（案）の対照表

第2期中期目標	第2期中期計画（案）																														
第1 中期目標（中期計画）の期間																															
平成28年4月1日から平成33年3月31日までとする。	平成28年4月1日から平成33年3月31日までとする。																														
第2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項																															
<p>1 市民病院として果たすべき役割の発揮</p> <p>(1) 救急医療への対応</p> <p>二次救急医療機関としての役割を果たすため、地域の医療機関との連携及び役割分担のもと、積極的に重症患者を受け入れること。</p> <p>また、本市の消防本部との連携により、救急ワークステーション機能などの救命救急体制の充実を図ること。</p> <p>(2) 災害時等の医療協力</p> <p>大規模災害発生時や重大な感染症の流行時などには、本市からの要請に基づき必要な医療を提供するとともに、患者の受入れや医療チームの派遣等の救護活動を積極的に実施すること。</p> <p>併せて、被災を想定した業務継続計画の適切な運用のもと、市民病院として医療の提供を通して安全・安心なまちづくりに貢献すること。</p> <p>(3) 予防医療の提供</p> <p>充実した医療スタッフと高度な医療検査機器を活用し、人間ドックや検診をはじめとした予防医療の提供に努めること。</p> <p>また、長期的な健康管理の視点から、健康講座や啓発活動などを通じて、地域住民の予防医療への意識を高め、健康寿命の延伸に貢献すること。</p>	<p>1 市民病院として果たすべき役割の発揮</p> <p>(1) 救急医療への対応</p> <p>① 救急患者受入体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救急科を中心に各専門診療科と協力して受入体制を強化する。 ・地域の医療機関と連携し、圏域の2次救急医療において中核的役割を果たす。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th rowspan="2">目標指標</th> <th colspan="3">32年度目標値</th> </tr> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th colspan="3">参考（26年度実績）</th> </tr> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th></th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> <th>東市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急車受入件数</td> <td style="text-align: center;">6,400</td> <td style="text-align: center;">3,106</td> <td style="text-align: center;">2,520</td> </tr> </tbody> </table> <p>《活動指標》救急外来受診者数、救急受入要請に対する不応率、地域救急貢献率、CPA受入件数</p> <p>② 循環器・周産期・小児救急医療体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時における24時間365日の受入体制を堅持し、地域医療を支える。 <p>《活動指標》心臓血管センター救急搬送受入件数、新生児緊急搬送車(カガル号)運行件数、母体搬送受入件数、小児科救急搬送受入件数</p> <p>③ 救急隊との連携体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディカルコントロール体制での指導的役割を発揮する。 ・救急ワークステーションを設置し、救命活動のレベルアップを図る。 <p>《活動指標》ドクターカー運行件数、救急救命士研修受講者数</p> <p>(2) 災害時等の医療協力</p> <p>① 災害発生時の医療体制の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害医療マニュアルを整備し、日ごろからトリアージや患者搬送、救護チームの派遣などの災害訓練、研修を実施する。 ・業務継続計画を策定し、大規模災害発生時の医療継続体制の確保に努める。 <p>《活動指標》災害訓練・研修実施数、災害医療派遣チーム訓練参加人数</p> <p>(3) 予防医療の提供</p> <p>① 疾病の早期発見、健康寿命の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間ドックや検診体制を整備し、疾病の早期発見による円滑な医療連携を進める。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th rowspan="2">目標指標</th> <th colspan="3">32年度目標値</th> </tr> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th colspan="3">参考（26年度実績）</th> </tr> <tr style="background-color: #cccccc;"> <th></th> <th>中央市民病院</th> <th>西市民病院</th> <th>東市民病院</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人間ドック受診者数（人）</td> <td style="text-align: center;">4,900</td> <td style="text-align: center;">305</td> <td style="text-align: center;">1,453</td> </tr> </tbody> </table>	目標指標	32年度目標値			参考（26年度実績）				中央市民病院	西市民病院	東市民病院	救急車受入件数	6,400	3,106	2,520	目標指標	32年度目標値			参考（26年度実績）				中央市民病院	西市民病院	東市民病院	人間ドック受診者数（人）	4,900	305	1,453
目標指標	32年度目標値																														
	参考（26年度実績）																														
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院																												
救急車受入件数	6,400	3,106	2,520																												
目標指標	32年度目標値																														
	参考（26年度実績）																														
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院																												
人間ドック受診者数（人）	4,900	305	1,453																												

(4) 地域の医療機関との連携強化

県が策定する地域医療構想との整合性を図りながら、地域の医療機関との連携のもと医療の機能分担を推進すること。

また、地域の医療関係者に対する研修や在宅医療との橋渡しなど、地域医療支援病院としての役割を果たし、地域包括ケアシステムの構築に資すること。

2 高度・専門医療の提供及び医療水準の向上

(1) 高度・専門医療への取組

医療上の重要課題である5疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）に対して、地域の医療機関と連携、役割分担のうえ、専門的な医療提供体制の充実に取り組むこと。

また、消化器、循環器、がん治療、小児・周産期の各分野を中心に、病院が保有する高度・専門医療機能のセンター化や集学的治療体制を進化させ、診療体制の強化、充実を図ること。

なお、地域の中核病院として、各専門領域において臨床評価指標（クリニカル・インディケーター）を整備し、客観的評価を通じて質の高い医療を提供すること。

② 健康教育・啓発の推進

- ・講座や健康教室などを通して、病気の予防や生活習慣病について啓発する。
- 《活動指標》糖尿病教室開催数、市民健康講座・健康教室等開催数

(4) 地域の医療機関との連携強化

① 地域医療支援病院の役割

- ・地域の医療機関のニーズに即した前方連携及び後方連携機能を強化する。
- ・オープンカンファレンスや研修会を通して、顔の見える連携体制を構築する。
- ・地域連携情報誌「おひさま」を発行し、病院の動向をわかりやすく発信する。

目標指標	32年度目標値	参考（26年度実績）	
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
紹介率（％）	70.0	70.7	69.5
逆紹介率（％）	75.0	68.1	83.1

《活動指標》新入院患者紹介率、地域医療機関サポート率、オープンカンファレンス院外受講者数

② 圏域内の医療機能分担

- ・圏域において高度急性期及び急性期に対応する病床機能を維持する。

目標指標	32年度目標値	参考（26年度実績）	
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
高度急性期機能病床数（床）	268	—	—
急性期機能病床数（床）	332	—	—

《活動指標》平均在院日数、重症度及び医療・看護必要度、1床当たり救急車受入件数

③ 地域包括ケアシステムの推進

- ・診療所や訪問看護ステーションとの連携を強化し、在宅医療体制を支援する。
- ・小児移行期医療における在宅医療との連携を推進する。

《活動指標》在宅復帰率、訪問看護ステーション実習受講者数、医療型短期入所（レスパイトケア）受入件数

2 高度・専門医療の提供及び医療水準の向上

(1) 高度・専門医療への取組

① 5大センターによる診療機能の向上

消化器センター

がん集学的治療センターと連携し、消化器癌の総合診療機能の向上を図るとともに、救急疾患への対応を強化する。

（重点施策）

- ・吐下血、急性腹症など消化器領域の救急医療
- ・食道・胃・大腸の早期がんに対する内視鏡治療のレベル向上
- ・胆膵領域の超音波内視鏡検査を中心とした診断レベルの向上
- ・3D内視鏡手術システムなど鏡視下手術の適用拡大 ⇒ 低侵襲手術の推進
- ・腹腔鏡、内視鏡合同手術（LECS）への対応 ⇒ 新たな手術方法への取組

目標指標	32年度目標値	参考（26年度実績）	
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
上部内視鏡検査件数	8,640	3,391	3,598
下部内視鏡検査件数	4,860	1,997	2,032

《活動指標》消化器内科救急受入件数、内視鏡的粘膜切除術（EMR）件数、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）件数、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査（ERCP）件数、超音波内視鏡検査（EUS）件数、消化器外科鏡視下手術件数

心臓血管センター

循環器内科・小児循環器内科と心臓血管外科の緊密な連携のもと、高度なカテーテル治療や心臓血管手術により、地域の心疾患治療をリードしていく。

（重点施策）

- ・急性心筋梗塞における3次救急医療 ⇒ 24時間365日緊急搬送受入体制
- ・低侵襲治療 ⇒ 経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）/ ステントグラフト治療 / 低侵襲手術（MICS）
- ・不整脈治療 ⇒ デバイス治療 / マグネティックナビゲーションシステム
- ・総合治療体制 ⇒ 末梢血管治療 / 心構造疾患インターベンション
- ・大学病院や兵庫県立こども病院との連携 ⇒ 先天性心疾患治療
- ・再発予防・早期社会復帰 ⇒ 急性期心臓リハビリテーション

目標指標	32年度目標値	参考（26年度実績）	
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
冠動脈インターベンション（PCI）件数	400	—	394
アブレーション件数	200	—	167
デバイス治療件数	210	—	159
末梢血管インターベンション（PTA）件数	290	—	175
開心術・大血管手術件数	112	—	98
心臓リハビリテーション単位数（個別/集団）	19,000/12,600	—	7,608/6,056

《活動指標》Door to Balloon time、急性大動脈疾患・急性冠動脈疾患等の緊急救命手術件数、大動脈瘤ステントグラフト件数、小開胸手術（MICS）件数、ハイブリッド手術件数、先天性心疾患に係る開心術手術件数

こどもセンター

小児救急医療から高度専門治療まで東播磨地域におけるこどもの成長に合わせた包括的小児医療を提供する。

（重点施策）

- ・小児医療の地域内完結率の向上
- ・小児救急医療 ⇒ 24時間365日診療体制
- ・高度専門治療 ⇒ 呼吸不全管理 / 血液浄化療法 / 生物学的製剤治療
- ・小児先天性疾患（循環器、脳神経外科、形成外科）治療
- ・小児在宅医療支援 ⇒ 移行期医療 / レスパイトケア
- ・発達障害や思春期医療

目標指標	32年度目標値	参考（26年度実績）	
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
小児科救急搬送受入件数	1,950	1,457	424

《活動指標》小児入院延患者数、小児外来延患者数、小児外科手術件数、小児脳神経外科手術件数、小児循環器手術件数、小児形成外科手術件数

周産母子センター

総合周産期母子医療センター機能を整備し、リスクの高い妊娠・分娩や高度な新生児医療に対応した24時間365日体制で母子の健康を守る。

(重点施策)

- ・母体・胎児の集中治療（MFICU）の稼働 ⇒ 総合周産期母子医療センターの指定
- ・LDR システムなど分娩環境の整備
- ・新生児高度医療 ⇒ NICU / 新生児緊急搬送受入れ
- ・こどもセンターとの連携 ⇒ 新生児の血液浄化療法、呼吸管理などの専門治療
- ・GCUの機能充実 ⇒ NICUとの連携（後方病床） / ハイリスク母子の支援
- ・赤ちゃんにやさしい病院 ⇒ ファミリーセンタードケア、母乳育児

目標指標	32年度目標値	参考（26年度実績）	
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
分娩件数	900	877	—

《活動指標》ハイリスク分娩件数、緊急母体搬送受入件数、母体胎児集中治療室（MFICU）稼働率、新生児集中治療室（NICU）稼働率、新生児治療回復室（GCU）稼働率、退院時母乳率、地域分娩貢献率

がん集学的治療センター

兵庫県指定がん診療連携拠点病院として、手術支援ロボットや定位的放射線装置による高度ながん治療をはじめ化学療法や緩和ケアによる体系的がん診療体制を強化していく。

(重点施策)

- ・5大がんを中心とした治療体制 ⇒ 血液がんや肝胆膵がんの取組を強化
- ・診断技術の向上 ⇒ 病理専門医の確保 / 画像診断機器の高度利用
- ・低侵襲外科治療 ⇒ 鏡視下手術の適用拡大
- ・放射線治療体制 ⇒ 放射線治療医の確保をはじめとするスタッフの拡充
- ・化学療法の質向上 ⇒ プロトコールの標準化
- ・患者支援体制 ⇒ 緩和ケアの充実 / がん相談 / がん治療の広報・啓発

目標指標	32年度目標値	参考（26年度実績）	
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
PET-CT 件数	1,800	1,499	—
放射線治療件数	6,050	4,161	—
化学療法件数	4,500	1,183	—

《活動指標》がん登録件数、がんセンター開催数、悪性腫瘍手術件数、緩和ケアチーム介入件数、がん相談件数、がんリハビリテーション実施件数

- ② 5疾病（がん、急性心筋梗塞、糖尿病、脳卒中、精神疾患）への取組
地域の医療機関と連携し、5疾病に対する医療体制の維持・向上を図る。

【がん】

- ・兵庫県指定がん診療連携拠点病院として診療体制の向上及び診療の均てん化に努める。

《活動指標》がん退院患者数

(2) 総合診療体制とチーム医療の充実

患者の病態に応じて、診療科の枠を越えた総合的な医療を提供できるよう全ての職員による協働体制を構築すること。

また、医師、看護師、薬剤師など多職種の職員が目的を共有する中でそれぞれの専門性の向上を図り、相互に連携・補完することによって質の高いチーム医療を提供すること。

(3) 専門性及び医療技術の向上

疾病構造の変化や医学の進歩に対応し、高度かつ先進的医療が地域住民に提供されるよう大学病院や各学会等との連携を図りながら、高度医療機器の活用や新たな知識、技能の習得を通して、専門性及び医療技術の向上を図ること。

【急性心筋梗塞】

- ・心臓血管センターにおいて24時間365日体制で高度専門医療を提供する。
《活動指標》急性心筋梗塞退院患者数

【糖尿病】

- ・教育入院や糖尿病合併症の治療体制の充実を図る。
《活動指標》糖尿病教育入院患者数

【脳卒中】

- ・脳血管障害に対する治療や脳血管リハビリテーションの取組を進める。
《活動指標》脳血管リハビリテーション実施件数

【精神疾患】

- ・認知症疾患センターとして院内他診療科と連携し身体合併症等への対応を強化する。
《活動指標》院内他診療科からの診察依頼件数

(2) 総合診療体制とチーム医療の充実

① 総合診療体制の強化

- ・各診療科が専門性を発揮し、多様な病態に対応できる治療体制を構築する。
- ・画像検査や薬剤指導など診療支援体制の充実を図る。
- ・院内の特徴ある診療機能について、順次、センター化を推進する。

目標指標	32年度目標値		
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
手術件数	5,780	3,094	1,610
MRI 件数	15,500	7,379	4,715
CT 件数	40,000	17,632	15,542

《活動指標》全身麻酔実施件数、新入院患者数、外来手術件数、ICU稼働率、薬剤管理指導実施率、栄養食事指導件数、リハビリテーション実施件数

② チーム医療の推進

- ・部門を超えて多職種によるチーム活動を推進する。
- ・クリニカルパスを活用し、治療内容の可視化による効率的な医療の提供を目指す。
- ・医科と歯科の連携を推進し、治療実績の向上を図る。

目標指標	32年度目標値		
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
クリニカルパス使用率(%)	52.0	48.7	55.2

《活動指標》口腔ケア実施件数、栄養サポートチーム(NST)実施件数、精神科リエゾンチーム診療件数、褥瘡発生率、院内感染制御チーム(ICT)ラウンド実施回数

(3) 専門性及び医療技術の向上

① 医療の質管理

- ・臨床指標に基づく客観的な医療機能の評価を実施し、医療の質向上を図る。

・TQM/QI委員会による職種横断的な医療の質改善活動を推進する。

② 医療技術の向上

・ロボット手術やマグネテックナビゲーションシステム等の急性期医療を支える高度医療機器を整備し、最新の治療及び診断技術を提供する。

目標指標	32年度目標値	参考（26年度実績）	
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
マグネテックナビゲーションシステム稼働件数*	100	—	—
手術支援ロボット稼働件数*	55	—	—

*新規

(4) 臨床研究及び治験の推進

・臨床における医学研究や医薬品、医療機器の開発に係る治験を推進し、より有効で安全な治療の実現を目指すとともに、新薬や新しい機器の実用化に貢献する。
 ・倫理委員会及び治験委員会の適切な運営により安全性と倫理性を確保する。

《活動指標》臨床研究件数、治験実施件数

3 安全で信頼される医療の提供

(1) 医療安全対策の徹底

【医療安全及び院内感染対策】

・医療安全管理委員会を中心に有害事象の検証・防止対策を推進する。
 ・院内感染対策委員会を中心に感染症の情報収集や院内の調査・監視を推進する。
 ・医療安全、感染対策に係る情報共有や研修を実施し、職員教育に努める。
 ・医薬品や医療機器の管理体制及び安全対策の徹底を図る。
 ・医療事故調査制度に対応した検証体制を整備する。

《活動指標》ヒヤリハットレポート件数、転倒・転落発生率、医療安全研修参加者数、感染対策研修参加者数

(2) 患者とともに進める医療の推進

・患者支援センターを中心とした情報提供や相談体制を充実する。
 ・治療内容や目的をわかりやすくするため説明文書や同意書等の工夫・改善を進める。
 ・セカンドオピニオンに積極的に取り組む。

《活動指標》患者支援センター医療相談件数、医師からの病状説明に対する満足度、セカンドオピニオン紹介件数

(3) 患者ニーズに対応したサービスの充実

・各部門（診察、検査、会計）で待ち時間の短縮に努める。
 ・相手の気持ちに寄り添う「思いやりと気配り」の接遇を実践する。
 ・患者満足度アンケートや「ふれあいポスト」などを通じて患者の評価や意見を把握し、サービス改善に努める。
 ・クレジットカード支払いや自動精算機を整備し、会計の利便性を向上させる。
 ・JR加古川駅と病院間のシャトルバスを運行し、病院へのアクセスを確保する。

(4) 臨床研究及び治験の推進

高度・専門医療を担う市民病院として、医療機器の新規承認や新薬の適用拡大に貢献すべく臨床研究及び治験に積極的に取り組むこと。なお、推進にあたっては、患者への十分な説明のもとで行うとともに、安全性及び倫理性を十分に確保すること。

3 安全で信頼される医療の提供

(1) 医療安全対策の徹底

医療安全に関する情報の収集、分析や事故の予防に病院全体で取り組むとともに、事故発生時の検証体制や再発防止策の強化に努めるなど、医療安全対策の客観性と透明性を確保しながら、患者及び地域住民に信頼される安全で安心な医療提供体制を整備すること。

また、院内感染に対する職員教育など院内感染防止対策を確実に実施し、安心して診療を受けることができる医療環境を確保すること。

(2) 患者とともに進める医療の推進

患者中心の医療を提供するという理念のもと、インフォームド・コンセントの徹底を図るとともに、相談・支援体制の充実など「患者の権利と義務」に基づいた双方向によるコミュニケーションの確立を図ること。

(3) 患者ニーズに対応したサービスの充実

患者やその家族の意向を踏まえた院内環境の整備や、職員一人ひとりが接遇の向上を意識するなど、絶えずサービスの向上に努めることにより、患者の満足度を高めること。

また、待ち時間の改善や多様な支払い方法への対応など、利便性の向上にも努めること。

(4) わかりやすい情報提供の推進

病院が提供するサービスや取組について地域住民が理解しやすいよう、適切な媒体を用いて積極的な広報に努めるとともに、経営状況を公表し、地域住民とのコミュニケーションを図りながら地域に開かれた病院づくりに努めること。

また、シンポジウムや講演会の機会を通して、地域の医療提供体制や医療機関の適正な利用の促進についてわかりやすい普及啓発を行うこと。

4 優れた医療従事者の確保及び育成

(1) 優れた医療従事者の確保

安定的な医療提供体制の維持及び医療水準の向上を図るため、医師や看護師をはじめ、チーム医療に欠かせない多様な専門職種の人材の確保に努めること。

(2) 臨床研修病院としての機能の発揮

「学べる病院」として、幅広くかつ専門性の高い全人的医療を身に付けることができる魅力的な臨床研修体制を整備し、医師育成の原点である初期臨床研修医の確保や、大学病院との連携を図りながら専門医の育成に努めること。

(3) 人材育成・教育体制の充実

医療従事者の専門化や技術の高度化を図るため、研修環境の整備や資格取得に対する支援策を充実させるほか、指導者の育成にも取り組むこと。

目標指標	32年度目標値			参考(26年度実績)		
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
患者満足度/入院(%)	95.0	90.1	95.9			
患者満足度/外来(%)	85.0	79.0	56.2			

《活動指標》外来平均待ち時間、接遇・対応の満足度(入院/外来)、ふれあいポスト意見回収件数、意見回収件数に占める感謝の割合、意見回収件数に占める苦情の割合

(4) わかりやすい情報提供の推進

・ホームページや広報誌「つつじ」の内容を刷新し、病院からのお知らせや各診療科の特色及び案内に関する情報を積極的に提供する。また、臨床指標や経営指標等を用いた分かりやすい運営情報の発信に努める。

・加古川市や医師会などの行う啓発事業と連携し、地域包括ケアシステムの推進など地域医療制度について住民への理解を求めていく。

《活動指標》広報誌「つつじ」発行数、ホームページに対する満足度

4 優れた医療従事者の確保及び育成

(1) 優れた医療従事者の確保

・神戸大学との連携、協力関係を強化し、医師の安定的な派遣体制を構築する。
・医学生への合同説明会や病院見学の受入れを積極的に進め、初期臨床研修医の定数確保を維持する。
・看護師の安定的な採用に向けて、奨学金制度や近隣の大学・養成機関との関係強化に努める。
・学校訪問や説明会、病院見学やインターンシップ等による広報活動を充実する。

目標指標	32年度目標値			参考(26年度実績)		
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院	中央市民病院	西市民病院	東市民病院
医師数(人)*	150	95	40			
初期臨床研修医数(人)	23	11	1			

*初期臨床研修医を除く、常勤医

《活動指標》看護師数、医療技術職員数

(2) 臨床研修病院としての機能の発揮

・基幹型初期臨床研修病院として魅力的な研修体制を整備する。
・多職種が研修に関わり病院全体で臨床研修を推進する。
・研修管理委員会を中心に研修医の意見を採り入れながら研修プログラムの充実や運用の改善を図る。
・大学病院や関係病院と連携し、新たな専門医の研修体制を構築・運用する。

《活動指標》臨床研修指導医資格取得者数、初期臨床研修医募集定員充足率、専門医研修医数(専攻医)、学会認定等施設件数

(3) 人材育成・教育体制の充実

・専任職員の配置など教育支援センターの運営体制を充実する。
・病院職員としての資質向上のための院内研修体系を整備する。

<p>また、教育支援センターを中心に職員の教育及びキャリアアップを一元的に支援できる体制を確立すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職種別のキャリア形成プログラムを整備し、プロフェッショナルな人材を育成する。 ・専門資格や認定の取得に対する教育助成制度を活用し、効果的にキャリア形成を推進する。 <p>《活動指標》教育支援センター主催研修回数・受講者数、教育研修予算執行率、専門医資格取得数、専門看護師数、認定看護師数、診療情報管理士数、医療情報技師数</p>
<h3>第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項</h3>	
<p>1 自律性、機動性及び透明性の発揮</p> <p>(1) 柔軟で即応性のある組織運営</p> <p>地方独立行政法人制度の特徴を生かし、患者動向や医療需要等の病院経営を取り巻く状況の変化に迅速に対応するため、診療体制の見直しや職員の配置を弾力的に行い、業務運営の最適化を図ること。</p> <p>(2) 経営管理能力の向上</p> <p>目標管理制度などのマネジメント手法の定着を図り、継続的な業務改善や意識改革に取り組む組織風土の醸成を図ること。</p> <p>なお、法人の経営戦略や財務管理を担う病院運営のスペシャリストとしての職員を配置するなど、組織運営の強化に努めること。</p> <p>(3) 効率的な業務体制の推進</p> <p>業務の標準化や外部化を促進するとともに、ICTの効果的な活用によって組織内の情報共有や相互連携を高め、効率的な業務の執行にあたること。</p> <p>また、病床の適正な配置や計画的な医療機器等の設備投資により、医療資源の有効活用を図ること。</p> <p>(4) 業務管理（リスク管理）の充実</p> <p>市民病院としての公的使命を適切に果たすため、関係法令の遵守はもとより、行動規範と職員倫理の確立に取り組むこと。</p> <p>また、監事や会計監査人による監査をはじめ、病院機能評価の受審などの外部評価を活用し、業務管理の見直しと課題の改善を図ること。</p> <p>さらに、個人情報保護や情報セキュリティ対策に努める一方で、情報公開や公益通報制度を適切に運用し、透明性を確保すること。</p>	<p>1 自律性、機動性及び透明性の発揮</p> <p>(1) 柔軟で即応性のある組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営幹部の迅速な意思決定を支援するための会議体を再編する。 ・所管業務や事務権限を明確にするとともに、組織内の情報共有の徹底を図る。 ・院内委員会による自律的な協働運営体制を推進する。 ・医療環境の変化に対応するための組織改変や弾力的な人員配置を行う。 <p>《活動指標》院内委員会設置数、機構ニュースレター発行数</p> <p>(2) 経営管理能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院長、副院長、センター長など幹部職員の分任体制(マネジメント)を推進する。 ・全部門において目標管理制度を推進し、年度計画の着実な達成を図る。 ・ICTを活用しDPCデータや収支状況などの経営情報を分かりやすくタイムリーに提供し、職員の経営参加を促進する。 <p>(3) 効率的な業務体制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合グループウェアの活用や事務支援システムを順次導入し、事務の簡素化を図る。 ・事務部を中心に業務フローを整備し、標準化を進め、業務効率の向上を目指す。 ・高額医療機器やシステムの計画的な更新・整備を行い、導入後はその効果を検証する。 ・稼働状況に応じて病床配置を適宜見直し、効率的な患者受入体制を整備する。 <p>《活動指標》委託費比率/対医療収益</p> <p>(4) 業務管理（リスク管理）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院運営の理念や基本方針、職業倫理などの周知徹底を図り、組織人としての自覚と使命感の涵養を図る。 ・会計監査人による監査や病院機能評価など外部評価による課題の改善に取り組む。 ・情報セキュリティ対策を強化する。 ・情報開示による透明性や公益通報制度の適切な運用によりコンプライアンスを確保する。 ・防災や防犯対策について必要な措置を講じる。 <p>《活動指標》情報開示件数、コンプライアンス研修参加者数</p>

2 やりがいを持てる病院づくり

(1) 職員の満足度の向上

全ての職員が専門性を十分に発揮できるよう適切な役割分担のもと、業務の負担軽減と平準化に努めるとともに、組織の一体感や連携体制を築くことで一人ひとりの達成感を高めること。

また、職員の意見が反映される仕組みを構築し、病院で働く全ての職員が誇りを持って職責が果たせるよう、やりがいの創出に努めること。

(2) 人事制度の効果的な活用

人事評価システムにより職員の業績、職務能力、職責等を公正に評価し、職員の意欲が引き出される公平かつ客観的な人事制度の運用に努めること。

また、給与制度は、病院の業績を考慮した水準にするとともに、社会一般の情勢を踏まえて適正に運用し、職員の能力や成果を反映したものとすること。

(3) 働きやすい職場環境の整備

院内の保育環境や多様な勤務制度の充実により、育児と仕事の両立を支援するとともに、定年延長制度の運用と併せて、全ての職員にとってワーク・ライフ・バランスが確保される働きやすい仕組みづくりを進めること。

2 やりがいを持てる病院づくり

(1) 職員の満足度の向上

- ・職員満足度調査を定期的に行い、満足度の低い分野を把握し改善を図る。
- ・職員自身の意欲向上や業務改善にかかる取組を促進させるため、発表会やチーム活動を支援する。
- ・医師や看護師の専門性を向上させるために、医療クラークや看護補助者などの適切な配置を行う。

目標指標	32年度目標値		参考(26年度実績)
	中央市民病院		
職員満足度(7段階評価)*	5.0		機構全体 4.6

*7段階評価による結果(平均値4.5)

《活動指標》仕事にやりがいや誇りを感じると答えた割合、機構学術研究会発表件数、TQM委員会発表件数、クリニカルパス委員会発表件数、医師事務作業補助者数、看護補助者数

(2) 人事制度の効果的な活用

- ・人事評価を公正に運用するための評価者教育や苦情申立に関する制度を整備する。
 - ・人事評価制度を通して、職員の業績や能力が客観的かつ適切に処遇に反映できる人事給与制度を確立し、職員のモチベーションが維持向上される仕組みを構築する。
- 《活動指標》人事評価者研修参加人数、苦情申立処理件数

(3) 働きやすい職場環境の整備

- ・院内保育園や育児・介護休業制度等を適切に運用し、育児中の職員や家族の看護、介護等が必要な職員の仕事と家庭の両立を支援する。
 - ・メンタルヘルスやハラスメントに関する相談体制を確保する。
 - ・長期休業者の復職を支援する取組を検討し、職員の定着化及び離職者の低減を図る。
 - ・就業ルールや福利厚生制度のアドバイザー機能の充実を図る。
 - ・職員互助会等の活動を助成し、職員相互のコミュニケーションの活性化を推進する。
- 《活動指標》院内保育園利用者数、育児休業取得割合、長時間勤務実績、年次有給休暇取得割合、部署別離職割合(看護部・薬剤部・診療支援部)、臨床心理士相談件数、互助会ビアパーティ参加人数

第4 財務内容の改善に関する事項

1 経営機能の強化

新病院の稼働開始に伴い一定期間は経常収支の悪化が予想されるが、市民病院としての役割を十分に果たしつつ、安定した経営基盤を確立できるよう法人が一丸となって収益の向上と運営の効率化に努め、中期目標期間中の経常収支の均衡を図ること。

また、長期的には、本市の財政状況に影響されない独立した経営を目指すこと。

なお、経営情報の分析にあたっては、具体的な数値目標に基づく達成状況の管理を行うとともに、ベンチマークによる他病院との比較手法を活用し、経営上の課題の把握に努めること。

2 収益の確保及び費用の節減

(1) 収益の確保

診療報酬の改定や医療制度の変革に的確に対応するとともに、病床や高度医療機器の稼働率の向上を図るなど、積極的な収益確保に取り組むこと。

また、診療報酬の請求漏れ等の防止、未収金の発生予防及び管理・回収などにおいても、適切な対策を講ずること。

(2) 費用の節減

コスト管理を徹底するとともに、各部門で業務の内容や実施体制について不断の見直しを行い、効率性と合理性の観点から費用の節減を図ること。

1 経営機能の強化

- ・計画期間中において経常収支の均衡を図る。
- ・部門別の収支分析や同等規模の病院との比較をもとにした経営分析により、自院の強みや弱みを客観的に把握し、経営改善を推進する。

目標指標	32年度目標値		参考(26年度実績)	
	中央市民病院		機構全体	
経常収支比率(%)	100.3		102.5	
医業収支比率(%)	95.9		100.7	

《活動指標》償却前経常収支比率、償却前医業収支比率、運営費負担金比率

2 収益の確保及び費用の節減

(1) 収益の確保

- ・圏域の医療需給や患者の入院、来院分析を踏まえて、着実な増患対策に取り組む。
- ・施設基準の新規取得や適正なDPCコーディングによる収益確保に努める。
- ・診療報酬の請求漏れの防止や査定減の極小化を図る。

目標指標	32年度目標値		参考(26年度実績)	
	中央市民病院	西市民病院	東市民病院	
入院診療単価(円/人・日)	66,000	58,453	76,515	
外来診療単価(円/人・日)	13,000	13,747	10,639	
1日あたり入院患者数(人)	510	295	183	
1日あたり外来患者数(人)	1,360	848	498	
病床利用率(%)	85.0	79.2	88.8	
医業収益(千円)	17,308	9,391	6,573	
入院収益(千円)	12,286	6,286	5,108	
外来収益(千円)	4,314	2,844	1,293	

《活動指標》DPC機能評価係数、診療報酬査定減率

(2) 費用の節減

- ・あらゆる費用について節減が意識されるよう、会議等の機会職員への周知を繰り返し、実効性の確保に努める。
- ・診療材料や医薬品については、市場調査を徹底し価格交渉を行うとともに在庫管理を精査しコストダウンを図る。
- ・給与費等の人件費は、採用計画に基づき適切な執行管理を徹底する。

目標指標	32年度目標値		参考(26年度実績)	
	中央市民病院		機構全体	
給与費比率/対医業収益(%)	50.0		50.8	
診療材料費比率(%)	14.6		14.4	
医薬品比率(%)	9.5		9.4	
経費比率/対医業収益(%)	16.6		17.6	

《活動指標》後発医薬品の数量割合、一般管理費比率

第5 その他業務運営に関する重要事項

- 1 新病院整備計画への着実な対応
新病院が新たな基幹病院として早期に地域で根付くよう、ハード、ソフトの両面において着実な整備計画の推進を図ること。
なお、新病院の開院に際しては、安全に移転作業を行い、診療機能を両市民病院から新病院へ円滑に移行すること。
- 2 地域社会への貢献
 - (1) 実習施設としての役割
地域の医療実習施設として、医学生や看護学生をはじめ医療従事者を志す学生が医療の現場で知識や技術を学べるよう、積極的に実習生の受入れを行い、心豊かな将来の医療人の創造に協力すること。
 - (2) まちづくりへの参画
本市や県等の行政機関が設置する地域医療及び保健福祉関係の各種組織と連携を図り、医療の専門集団として、行政の進めるまちづくりに参画すること。特に、地域の特性に応じて創りあげるべき地域包括ケアシステムの実現に協力すること。
 - (3) 地域住民との交流
法人は、社会と共に歩む「良き企業市民」としての役割を果たしていくことが求められており、地域住民との交流を通じて、信頼され、愛される病院となるよう努めること。
- 3 本市の施策への協力
 - (1) 地元農産物等の活用の推進
地域食材の良さを伝え、地域の農業や食材への関心を高めるため、病院給食において地元農産物等の活用とそのPRを推進すること。

- 1 新病院整備計画への着実な対応
 - ・整備計画の推進状況を定期的に検証しながら、病院運営の早期安定化を図る。
- 2 地域社会への貢献
 - (1) 実習施設としての役割
 - ・神戸大学の重点関連病院として、医学生の臨床教育や実習・見学の受入体制を充実する。
 - ・近隣大学等の看護師養成機関をはじめ、薬学部や専門学校等からの実習受入れ・指導機能を強化し、地域の人材育成に貢献する。
 - ・イベントや見学を通して中高生など若い世代への医療や病院に対する関心を高める。
 - ・大学等へ講師として職員を派遣し、地域の医療教育の発展に協力する。

《活動指標》実習受入件数、講師等派遣件数
 - (2) まちづくりへの参画
 - ・加古川市をはじめ行政機関の協議会や委員会に参画し、医療や健康増進の視点でまちづくりに貢献する。
 - ・地域連携部門を中心に近隣市町の保健・福祉・介護部門や訪問看護ステーションとの連絡調整機能を強化し、地域包括ケアシステムの構築に協力する。
 - ・加古川養護学校の行事や療育支援事業など、加古川市が実施する福祉保健施策に協力する。
 - ・重症心身障がい児等を対象とする医療型短期入所（レスパイトケア）を実施し、住民福祉の向上に貢献する。

《活動指標》訪問看護ステーション実習受入数
 - (3) 地域住民との交流
 - ・住民と共に進める病院運営を実現するため、ボランティアの養成・組織化を進める。
 - ・看護の日や病院まつり等の交流行事を継承し、住民とのコミュニケーションを図る。
 - ・地域の一員として、ボランティア活動を推進する。

《活動指標》ボランティア登録者数、ボランティア実働時間
- 3 本市の施策への協力
 - (1) 地元農産物等の活用の推進
 - ・患者給食において地元農産物を採り入れた献立を推進する。

《活動指標》地元食材が材料に使用された割合

(2) 環境にやさしい病院運営

病院の運営にあたっては、ごみの発生抑制、ごみ分別の徹底及びリサイクルの推進など、常にごみの減量化に取り組むこと。

(2) 環境にやさしい病院運営

- ・環境負荷の少ない機器や物品の購入を推進する。
 - ・廃棄物の分別をより徹底し、ごみの減量化に努める。
 - ・地下水を利用した冷却システムの導入等、電気使用量、水道使用量の節減を図る。
- 《活動指標》 電気使用量、水道使用量